

平成24年12月伊勢原市教育委員会定例会会議録

平成24年12月20日（木）午前9時30分から伊勢原市教育委員会定例会を第3委員会室に招集した。

1. 出席した委員は次のとおり。

委員長	宇都宮 泰 昌
委員長職務代理者	三 箸 宜 子
委 員	菅 原 順 子
委 員	渡 辺 正 美
教育長	鈴 木 教 之

2. 会議説明のための出席者は次のとおり。

教育部長	坂 間 敦
学校教育担当部長	山 口 賢 人
教育総務課長	風 間 誠 司
学校教育課長	谷 亀 博 久
指導室長	高 橋 正 彦
教育センター所長	塩 川 幸 恵
社会教育課長	相 原 博
文化財課長	鍛 代 喜久男
スポーツ課長	内 藤 康 雄
図書館・子ども科学館長	藤 元 康 博

3. 会議書記は次のとおり。

教育総務課主査	瀬 尾 哲 也
---------	---------

4. 議事日程

日程第1 前回会議録の承認

日程第2 教育長報告

----- ○ -----

午前9時30分 開会

○委員長【宇都宮泰昌】 ただいまから教育委員会議を開催いたします。

----- ○ -----

日程第1 前回会議録の承認

- 委員長【宇都宮泰昌】 日程第1「前回会議録の承認」をお願いいたします。
- 委員全員 異議無く承認し、署名する。

----- ○ -----

## 日程第2 教育長報告

- 委員長【宇都宮泰昌】 日程第2「教育長報告」をお願いいたします。
- 教育長【鈴木教之】 本日は3点ございますが、1点目は私のほうから、2、3はそれぞれ担当部長からご説明をいたします。

まず、予算編成の状況をご報告いたします。

1月末までにかけて最終的な市長ヒアリングを予定しておりますが、例年よりもヒアリング日程が長くなっています。やはり首長が交代しましたので、事業ごとに詳細に見ていきたいということで、例外なき見直しをしたいということでございます。ということで、例年とは少し異なる日程の中で査定が行われるということです。

それから、先般、衆議院の選挙がございました。その選挙結果によりまして、いわゆる政権交代による影響が、今後出てくるだろうというのが最新情報でございます。

まず新聞報道等で、補正予算、景気対策、あるいは災害対策が検討されておりますが、約10兆円を想定しているということです。今、このいろいろな制度設計に国は入っているということで、その動向を非常に注目しております。

伊勢原市でも教育施設関係の整備をしまいましたが、その買い取りが大分残っているということで、この機会にそうした補正が適用できないかという検討を進めている段階でございます。

また政権交代によって、教育諸制度とか、あるいは具体的な施策の色合いがどうも変わる可能性があるということです。詳細は今後になりますが、その辺も含めて、情報収集に当たっていききたいというのが当面の考え方でございます。

多分国がこうしたことをまとめ上げるのは、1月末か、あるいは2月に入ってからということなので、その時にはいろいろな形が見えてくるであろうと思います。ですから、そういう状況にあわせて、地方あるいは市の予算もつくっていくということになります。

本日の資料1は、教育委員会の予算要求を財務サイドのほうで事務的に整理した結果をお示しした資料でございます。

歳出を主体にお話をさせていただきますが、平成24年度当初予算と比較して総額で5億円弱の増ということです。この中で大きいのが、教育総務課で5億800万円。これがプラスになってはいますが、これは先ほどお話しした石田小学校の校舎買い取りの返済金部分です。約2億5,000万円あります。それから、夏の暑さ対策の扇風機設置事業で、小・中学校合わせて1億7,000万円要求して

いるということです。それから、桜台小学校屋内運動場の返済金。これもかなり前に整備したのですが、それが約5,000万円。そして成瀬中学校と比々多小学校の屋根防水の関係で2,700万円、山王中学校の外装工事が約1,000万円というのが主なものでございます。

この12月市議会の一般質問でも、教育施設の改修等がなかなか進んでいないということで、大分活発な論議が行われております。また新市長の政策公約の1つに文教系のいろいろな施策を進めますというのが入っていますので、なかなか財政は苦しいのですが、相応の予算化は図られると見込んでいます。もちろん満額は無理かと思いますが、少しはプラスが出てくるだろうということです。

教育委員会の基本的な考え方としては、トイレ施設の論議等もありましたが、老朽化による施設整備の箇所が多いということもありまして、まず第一に子どもたちの安全・安心に配慮して、施設改修等を進めていきたいと考えております。

次に予算のボリュームとして多いのは学校教育課の予算でございまして、約1,000万円の増です。この内訳は、中学校の教材備品の購入が約850万円。それから給食調理員の臨時職員の補充に伴う経費が160万円などとなっているということです。

それから指導室の増額内容でございまして、35人学級にかかる非常勤講師の賃金が約480万円。それから教科担当制による非常勤講師賃金の480万円などでございます。

35人学級は、国の動向がまだ完全に見えておりません。それに附帯して県が上乘せしてきた部分の額が引き続き保証されるかどうかという部分の動向はまだ見えていないということで、これも年明けの議論になるかと思っております。

次に教育センターの増でございまして、これはスクールソーシャルワーカーと教育相談員の増員分、約600万円ということです。

それから文化財課で1,600万円の増ですが、これは図書館のAVコーナーに設置を予定している展示室の管理運営が約1,100万円。これはAVコーナーを少し衣がえしようという内容です。それから、北インター周辺の文化財範囲確認調査費が500万円でございます。ご承知かと思いますが、産能大学の近辺にインターができますので、その南側の土地を土地活用しようという計画がございまして。これは土地利用の施策なのですが、その前段として、文化財の埋蔵状況がどのくらいか、その価値はどのくらいかということの調査をしたいということで、500万円の要求ということです。

それからスポーツ課の大きな減少ですが、これは大田のスポーツ広場の用地取得が、全部ではありませんが大体終わったということからです。

そして、図書館・子ども科学館の増加につきましては、デジタル投影機のリース料が1,400万円。それから、図書館の前に福祉団体等の就労機会の確保ということで、カフェテラス等を設置できたらいいなということで、200万円を要求しております。ただ、これも厳しい予算状況の中でございまして、つくかどうかは不透明ということです。

いずれにしても、年明けから1月末にかけて、市全体の予算の調整が進む

ということです。

ただ、私どもの感触としては、比較的、学校施設や教育に関してはプラスの風が吹いているかなという感触を持っております。

以上でございます。

○学校教育担当部長【山口賢人】 文部科学省いじめ問題に関する緊急調査、県いじめ問題等への取り組み状況及び児童・生徒の状況調査結果について、ご報告させていただきます。資料2をご覧ください。

平成24年度の上半期に当たりますが、4月1日から9月5日までの間のいじめに関する緊急調査結果についてご報告させていただきます。

まず、国全体の概要でございますが、全体としては、小・中学校のいじめ認知件数が合計で13万883件ということで、平成23年度1年間の認知件数の2倍以上という数になっております。このうち、自殺をほのめかす、あるいはけんかの強要等、児童・生徒の安全を脅かすものが278件あったということでございます。

当市の結果としましては、小学校が17件、中学校が14件、合計が31件という状況です。国のほうでは278件という、児童・生徒の安全を脅かすものというようなことでございますが、伊勢原におきましては、そういうものはゼロ件となっております。

その対応の状況でございますが、認知された31件全てにつきまして、解消している、あるいは一定の解消が図られたが継続支援中ということで、改善率ということでいえば100%ということになっております。

主ないじめの態様といたしましては、冷やかしやからかい、悪口、嫌なことを言われる、これが84%ということではほとんどを占めているということでございます。これは例年の状況と同様になっております。

各学校では、アンケート以外にも個別面談など、児童・生徒の状況や発達の段階に即した方法を用いまして、今、陰に隠れやすいいじめというものがございまずので、兆候を見逃さないよう、きめ細やかな取り組みをしております。このことが認知件数の増加の要因として挙げられると思っております。

各学校に対しましては、今後も継続した指導をお願いしているところでございます。

○教育部長【坂間敦】 3点目、市議会12月定例会一般質問につきましてご報告いたします。資料は3番になります。

一般質問につきましては、今週月曜から昨日まで、3日間にわたりまして行われました。16人の議員さんから質問がございました。

今回は特に、新しい市長になったということで、市長の基本的な姿勢を問うという場面が非常に多く、質問の内容もそういうものが大変多うございました。やはり財政問題を掲げて当選されたので、財政問題に対する質問が非常に多かったです。教育委員会に関しては、教育問題について6人の議員さんから質問がございましたので、ポイントを絞ってお話をさせていただきます。

1番の横田議員です。大きく分けて、教育方針と教育課題に対する市の取り組

みという2点でございました。

1つ目の教育方針については、現在、教育振興基本計画を策定中ですが、前期の教育基本計画について、成果をどのように評価しているか。2つ目は、基本計画を今後策定していくのですが、前期との相違点があるのかどうかというご質問でした。

大枠でどう評価しているかというのは、答弁にありますとおり、点検・評価委員さん、これで点検・評価を実施している中で、おおむね成果は上がっているという認識を持っております。ただ、ハード面では、財政問題も含めまして計画どおり進んでいない状況があることを認識しております。

後期の計画の中で相違点があるかという点ですが、計画的なもの、基本となります教育ビジョンは8年間継続して堅持していきます。新たな法改正や、社会的な劇的な変化がないので8年間継続なのですが、基本計画の部分では、ライフステージに合わせた形で、計画の組みかえ、少し構成を変えていくというような対応をしております。

教育課題に対する市の取り組みの中で、1から4番までが、教育課題の抽出、効果の把握をどのようにしているか、あるいは児童・生徒の学力の実態、運動能力の実態、人間関係の実態、こういったものをどう評価して、どう成長させていくのかといったご質問でございました。

課題の抽出とか効果の把握ですが、これは1番のところで、学校関係者の評価を実施しまして、対策を検討して次年度への施策につなげていくということ。2つ目が学力の実態の評価ですが、全国学力・学習状況調査の結果の中では、小・中学校ともに、全国、それから県の平均解答率とおおむね同程度の結果であると。一人一人の学力の把握については、日々の教育活動において評価活動を大切にしていくと答えております。

3つ目の運動能力の実態につきましても、ほぼ全ての種目で全国平均値を下回っていると。規則正しい生活習慣の児童・生徒の体力が高い傾向にあることから、健康的な生活習慣の確立に向けて、学校だけでなく保護者にも啓発を図っていきたいという答えです。

4つ目が人間関係の実態、それをどう成長させていくかという質問でございましたが、児童・生徒がみずから進んで人間関係を構築しようとする意欲に乏しかったり、その方法がわからないことが危惧されると。そのために、人間関係づくりに配慮した学習活動を展開しています、と答弁いたしました。

5つ目は少し方向性が変わるのですが、市内小・中学校の施設整備の実態で、特にこの中ではトイレや雨漏りの実態、そして対策がどうなっているかというご質問でございました。

答えとしましては、5番のところですが、屋上防水や外壁塗装、トイレ改修といったものは、順次計画的な改修をしているとともに、安全にかかわるもの、緊急なものはその都度対応していきます、といった答えをしております。

2番の前田議員です。1番で、総合計画策定についてという大きなタイトルなのですが、この中では、中学校給食の導入についてご質問がございました。特に

神奈川県の中学校給食の導入率というのが、全国で見ると最低レベルであると。そういった中で、ぜひ伊勢原では中学校給食の実現を考えていきたいがどうだろうと、これは市長に対する見解を問われておりました。

答えとしては、食育の推進、現在の家庭を取り巻く環境等から、保護者の負担を軽減する意味でも中学校給食の重要性は認識していますと。ただ、財政上等の課題がございますので、地域経済への効果や保護者への理解が得られるような手法を検討していきます、という答えでございます。

3番目の小沼議員です。これは施設整備、特にトイレに限った質問でございました。小学校のトイレ問題の現状把握と改修の見通しということです。

小沼議員さんも小学校の現場を10校全部を視察をされました。清掃がかなり行き届いていてきれいだった反面、老朽化が目立つと。改修はどのようにしているかという趣旨のご質問でございました。

現状としましては、和便器が多い。特に新入児童にとっては使いづらいことがあるので、経年劣化によって、特に夏場のおいぎが強いということが課題になっていると認識しています。

今後の対応としましては、今までと同様に全面改修とともに、和式の便器を洋式便器に改修するといった暫定的な改修工事も進めていきたい。なおいについては、培養菌の散布を実施して防ぐような形で対応していきたいという答えをしております。

(3)で、そういった教育環境設備の充実のために、目的基金をつくったらどうかというご質問でございました。

答えとしましては、学校施設に限らずに、現在、まちづくり基金といった、少し範囲を拡大した基金ができないかという研究を、市全体でしておりますので、その中で学校施設整備、あるいはそれだけに限らずに、児童・生徒の教育環境の整備とか、文化・芸術といったものにも使えるようなメニューをつくっていくような方法を研究していきたいという答えをしております。

4番の橋田議員です。子どもの肥満について、本市の現状と予防対策の取り組みというご質問でございます。肥満の状況はどうか、予防対策はどうかということですが。

伊勢原市内の児童・生徒に占めている、いわゆる肥満の子どもの比率は、県平均と比較してほぼ等しいと。国平均よりは低くなっています。

対策ですが、今後も保健だよりや給食だよりで、身長・体重のバランスのとれた身体の育成を目指して、保護者への啓発も行っていきます、という答えをしております。

5番の前澤議員です。効率的な行政運営と安全なまちづくりという中で、子どもの安全確保、特に学校校舎の非構造部材の点検はどうなっているのかということ。もう1点は、通学路の安全確保についてのご質問でした。

1点目の、校舎の非構造部材につきまして、これは文部科学省で点検マニュアルができていますので、これを活用した中で、今年度は点検を行いました。その結果、危険と思われる箇所はございませんでした、という答えをしております。

通学路につきましては、これは例年なのですが、各学校で地域の方々のご協力をいただきながら巡回をしています。そこで見つかった改善点を教育委員会に提出していただいて、市としては検討委員会を設けてございますので、その中で、早急に対応するものは対応する、要望するものは要望するという形で、計画的な整備と安全対策に取り組んでいます、という答えをしております。

最後に6番の小林京子議員です。市民サービスの向上についてという中で、2点、ご質問がございました。1つは、学校でけがをした場合の災害共済給付制度と、市の小児医療費助成制度がございまして、そのかわりについてどう考えているかというご質問。2つ目が、35人学級の推進ということで、小学校3年生まで35人学級を進めるべきではないかというご質問でございました。

1点目の制度ですが、児童・生徒が学校でけがをした場合に備えて、災害共済給付制度には現在加入しています。もう一方の小児医療費助成制度は、上乗せしておりますので市の単独事業です。これについては、補助金のような財源の補填がないということもありまして、学校を通じて、保護者に対しては災害共済給付制度のほうを利用させていただくようお願いしています、という答えです。

35人学級の推進については、伊勢原市では、国に先駆けて小学校1・2年生で35人学級を既に実施しています。小学校3年生以上の35人学級については、現在、国が拡大するという動きも見せていますので、そういった動向を注視するとともに、教科担当制の導入といった取り組みも推進していきたいという答えをしております。

○委員長【宇都宮泰昌】 ありがとうございます。

ただいま、教育長報告ということで3点上がりましたが、何かご意見、ご質問がございましたらお願いします。

○委員【三箸宜子】 予算要求の絡みでお聞きしますが、給食の問題を前田議員が質問されています。答弁として手法を検討していくというふうになってはいますが、これはどういう方向なのか、また、今、給食の問題はどうなっているのかを教えてください。

○教育長【鈴木教之】 市長に認識を伺ったのですが、やはり財政の問題が見えないと給食の導入は無理だろうというのが一番の基本認識で、これは変わっておりません。自校式が理想ということで答申をいただいたのだけれど、時代が大分変わって、調理方法とか支給の方法が、民間事業者でも大分普及してきたわけです。中学校給食はまだですが、老人給食とかそういったものが完全にサービス化されているので、そうした手法も研究する必要があると思います。海老名市は給食センター方式をやったのですが、あれは文部科学省のメニューではなく防災のメニューの中で、非常時の炊き出しもすることを目的に整備したということで、補助財源を導入しています。またイニシャルコストをうまく抑えるためには、民間支給のデリバリーでもいいでしょうし、あるいは、給食施設の整備手法も、ほかのメニューで工夫する余地はあるのではないかとというのが、新しい市長さんのお考えです。

○委員【三箸宜子】 内部で研究するのは非常に重要なことです。他の自治体

の経験等を学んで、伊勢原市を本当にどういうふうにしていくのかということの研究しないといけないと思いますが、市民の要望もよく考えながらやっていただきたいと思います。

○教育長【鈴木教之】 中学校給食に対する基本的な考え方は教育委員会の決議がありますので、当面それを尊重します。よほどのイノベーションがあったときにはまた再考していただきますが、今のところは変えません。

○委員【三箸宜子】 もう1点いいですか。トイレの問題がありますね。小学校のトイレは、全部和式なのですか。

○教育部長【坂間敦】 いいえ。現在の洋式化率は43%ぐらいです。

○委員【三箸宜子】 トイレの一つの問題は臭気のこと書いてありますが、和式だとどうして臭気のコントロールができないのですか。

○教育部長【坂間敦】 和式だからというよりは管が問題で、管が老朽化しているのです。そういった点から、どうしてもにおいが出てきてしまう。あとは、やはり尿石とか、尿が床についたりということからにおいがくるので、和式だからということはないかと思います。

○委員【三箸宜子】 私は思うのですが、例えば、子どもたちが和式はうまく使えないから全部洋式にします、と洋式にしますよね。家庭も今はほぼ洋式です。そして大きくなって伊勢原市役所に勤めてみたら、市役所は全部和式トイレだった。そんな時はどうするのかと思います。

事実、デパートなどに行くと、今、洋式と和式と両方置いています。時々年配の方に、「私は洋式はどうやって使うのかわかりませんから」と順番を譲られたりする場合があります。特に若い女性に多いようですが、和式トイレの使い方が下手でよくわかっていらっしやらないようです。

だからむしろ和式も残しておいて、和式トイレの使い方をきちんと子どもたちにも教えていくことも大切かなと思うので、全部洋式にするというのも、ちょっと考えものではないかなと思います。それに洋式だと人の肌がさわったところへ自分の肌をさわらせるから嫌だという人もいるようなので、いろいろ考えると、和式を全部だめなのだとしなくてもいいのではないかと思います。むしろ、ちゃんと使えるように学校でも教えていくほうがいいのではないかと思います。

○教育長【鈴木教之】 ご指摘のとおりで、議会の中でも甲論乙駁ありまして、やはり一定程度和式を保存すべきだろうというのが今の勢です。いろいろな生活習慣の問題もあるし、対応性の問題もあります。それに災害のときには和式しかないわけです。だから、そのトレーニングも含めて、教育的配慮から一定程度は残そうとしています。

うちの担当に言わせると、洋式が3分の2、和式が3分の1ぐらいかなという認識を持っていますので、またその意見もぜひ生かしていきたいと思います。当面は、本格改修と便器だけ洋式に変えるという2つの改修を組み合わせで整備していこうというふうにしてあります。

でも、まずは扇風機を何とかしてあげないとね。

○教育部長【坂間敦】 命にかかわる問題ですからね。



○委員【菅原順子】 先ほどの給食の話についてですが、前田議員に対する答弁の中に、「保護者の負担を軽減する」という言葉があるのですが、これは負担だと思わない保護者もいるわけで、そういう方たちは家庭で用意すべきだというご意見をお持ちなわけですよね。

ですから、この「保護者の負担を軽減する」という言葉ではなくて、要するに、保護者に格差があるということですね。それが子どもの環境の格差につながっている。その格差をなくす意味で、という意味なのではないかと。そういう捉え方のほうがいいのではないかなと思いましたが、いかがでしょうか。

あと1点は、いじめに関する資料2についての質問ですが、これは文部科学省や神奈川県の方の質問にあった文言だと思うのですが、認知と対応という言葉があるのですが、認知件数と対応状況という、これが、両方とも数がイコールになっています。これはイコールと考えてよろしいのか。もし同じだとすれば、言葉を統一するとか、あるいは「認知・対応状況」みたいな書き方のほうがわかりやすいのではないかなと。これはどういう定義というか区別があるかということなんです。認知したものは必ず対応できているのかというあたりを確認したいということと、下の四角の中に、細やかな把握に取り組んでいることが増加の要因と書いてあるのですが、先ほど、部長さんの話に、「認知件数の」増加の要因と主語のご説明がありましたが、伊勢原市の場合は増加はしていませんよね。減少しているということは、つまり発生件数そのものが減っているのかということ。そのあたりを質問したいと思います。

○委員長【宇都宮泰昌】 では給食の件から。

○学校教育課長【谷亀博久】 負担の軽減というのは、経済的な面の負担と、もう一つ、非常に共働き世帯がふえているということで、なかなかお母さんがお弁当をつくってあげるのが大変だ、難しいといった意味での負担を含めてです。

○教育長【鈴木教之】 表現をもう少し適切にしたらという話でしょう。委員さんのおっしゃるとおりですよ。まさにこれは世論を二分している話なのです。

ただ、こういう質問をされる方というのは、非常に理屈を先鋭化した中でやってこられますので、それに対する答えもこういう形で表現してあるということで、その認識は十分持っております。

○委員長【宇都宮泰昌】 よろしいですか。ではいじめの話を。

○学校教育担当部長【山口賢人】 認知件数という部分と対応の状況という部分でございますが、対応の状況については、いじめが認知をされて、それに対応してどれだけの件数が改善されたかという数がそこに示されています。

本市については31件、上半期にございましたが、それに対して、31件全てに対応して改善が図られているという捉えで見ていただければと思います。

○指導室長【高橋正彦】 このように認知件数が増加傾向にあるということは、各学校の取り組みが非常に細やかに行われているという意味合いでご説明させていただきました。

○委員【菅原順子】 わかりました。

○教育長【鈴木教之】 いじめに対しては、やはり掘り起こし効果というもの

があると思います。それと、本当に解消しているかどうかというのは、それは学校現場ではいろいろ神経を使ったほうがいいと思います。まだ潜っているものが絶対にあると思っています。

○委員【菅原順子】 具体的ないじめについての話を保護者の方から伺ったこともあるのですが、本人が訴える能力がないような場合も、周りの子どもさんやアンケートなどで先生が取り上げてくださって、それで解決につながったという話も聞きますので、細かい対応をしていただいていると私は思っております。

○委員【渡辺正美】 資料2下のほうに、この調査結果をふまえての今後の取り組みが何点か書いてあります。その3つ目に「見逃さないための取り組みをより充実させる必要がある」とあるのですが、どうも教師や大人が、何とか問題を起こらないようにしようとしているように見えるのです。

教室やグラウンドなど、子ども同士が絡んでいるというか、活動しているところでは、いろいろなことが起こります。でもそこにいる子どもたちが、問題が起こった場合自分たちで何とか解決しようとするのが大切です。4つ目ぐらいに、そのような子ども達の取り組みを、教師や大人たちがフォローしていくといった、子どもたちの自浄作用を柱とした内容を取り入れていく必要があるのかなと思います。

何か周りで問題が起こたら、子ども同士が自分たちで自発的に助けてあげようよとか、見て見ぬふりをしないようにしようよという意識づくりというものをしていく必要があるということを、4点目に入れてもらったほうがいいのではないかなと思います。

○学校教育担当部長【山口賢人】 この資料には対応の部分が書かれていると思いますが、今、学校では、早期発見、早期対応ということとともに、人間関係づくりをいかに子どもたち自身の力としてつけていくかという、そのところが大事なところだと考えています。指導主事がいろいろな研修会等で先生方に言っていることは、各教科の授業の中でこそ、そういう人間関係をつくれる、コミュニケーション能力を育てることが大切だということなのです。時間がかかることなのでしょうが、そういうことの積み重ねが、今ご指摘のあった自浄作用が利く子どもたちの集団づくりに結びつくのではないかなと思っております。

○教育長【鈴木教之】 まさに教育の本質なのです。基本なのです。

○委員【三箸宜子】 いじめの問題では、教育委員会も学校も、あの手この手で本当にいろいろなことをやっていかなければいけないと思います。しかし子どもたちがコミュニケーション能力をつけたり、みんなでいじめている子にだめだと言おうよという気持ちにさせる根本は、やはり家庭の親なのではないかなと思うのです。親と子どもが本当にコミュニケーションがとれていれば子どもは結構強くなれるというのを、実際にいじめられた子のお母さんから聞いたことがあります。

親が本当に子どもを強くしようというか、人間としてきちんと育てようという気持ちがないといけないと思うのです。人間関係を一番最初に学ぶのは親からですし、親に寄りかかって、子どもは心の平安を得ることができると思うのです。

その意味で、私は本当に今保護者の人にどうやってそういうことをわかってもらったらいいのかなと考えるのですが、そこがなかなか難しいですね。学校にそこまでやってもらうのは、とても無理だということもよくわかるのです。

そうすると、どこがそこをやるのか。行政も一度考えてみたほうがいいのではないのでしょうか。親に対する教育というか、親とはこういうふうにあるべきですよというのをどこが教えていくのか、わかってもらえるようにする仕組みが欲しいなと思います。これは社会全体の責任だとは思いますが…。

○教育長【鈴木教之】 今の点に関しては確かにご指摘のとおりで、平成18年に教育基本法の改正があったのですが、教育委員会制度のあり方みたいなものが、まだ中途半端なうちに終わってしまったという話と、もう一つは、学校だけでやり切れない部分、親の意識の問題です。いわゆる家庭教育にもう少しウエイトを移そうという動きが、どうも年明けに出てくるみたいです。

個々に強制的に教育するというのは無理ですが、社会啓発をどんどん進めるとか、あるいは罪は罪という部分の強化というのが、多分出てくるのではないかなと思っています。

ご指摘のとおりで、もうそこが最後の牙城なので、そこをしっかりとさせないと危くなるという意識を国は持っています。私どももその辺は神経を集中させていきたいなと思っています。

○委員長【宇都宮泰昌】 いじめの問題や給食の問題等、これらは今後、研究会でも議論を交わしていけたらいいなと思います。

それでは、ほかにご意見がないようでしたらその他事項に移りたいと思います。

----- ○ -----

## その他事項

○委員長【宇都宮泰昌】 その他事項、委員さんのほうから何かございますでしょうか。

ないようでしたら、事務局のほうからお願いいたします。

○指導室長【高橋正彦】 それでは、その他事項の(1)作文・ポスター等の各種コンクールの入賞について、指導室よりご報告させていただきます。資料4をご覧ください。

国・県レベルのコンクールで、今年度、上位入賞された件数について示させていただきます。この資料は12月11日現在の資料でございます。

伊勢原の子どもたちが努力をして活躍した結果であることはもちろんなのですが、学校や家庭での温かい協力があったものだと考えております。

昨年度に引き続きまして、今年も全国レベルでの表彰があったことが、非常に素晴らしい結果を生んでいるなと思っています。

○教育センター所長【塩川幸恵】 次に(2)平成24年度姉妹都市(ラミラダ市)教育視察研修派遣の報告について、教育センターからご報告させていただきます。

きます。資料5をご覧ください。

10月22日の月曜日から、大田小学校教諭と成瀬小学校教諭の2名を、教育視察研修のため姉妹都市（ラミラダ市）へ派遣し、10月29日、月曜日に帰国をいたしました。また、10月31日、水曜日には、市長、教育長への帰国報告を済ませておりますことを報告いたします。

2名の教員からは、アメリカの小・中・高等学校、図書館等を視察し、教職員、児童・生徒と交流したことや、教育委員会議に出席したことは大変貴重な体験であり、有意義な内容であったという報告を受けています。

また、研修報告会を、平成25年1月17日、木曜日、15時30分から、大田小学校を会場にして開催する予定です。ご都合がございましたら、研修報告会にぜひご出席くださいますよう、よろしく願いいたします。

○社会教育課長【相原博】　　続きまして（3）第48回市民文化祭実施報告につきまして、資料6に基づいて、社会教育課から説明させていただきます。

資料にありますように、10月21日の文化会館の発表部門を皮切りにしまして、中央公民館における展示、総合運動公園における菊花展を開催いたしまして、11月11日に終了いたしました。

催し物につきましては、参加27団体による33催事ということでございます。内訳は資料にお示ししたとおりでございます。

入場者数でございますが、1万4,629人ということで、対前年で485人の増となっております。

また、資料には直接載せていなかったのですが、第26回の、姉妹都市であります茅野市との文化交流展を実施しておりまして、伊勢原市の文化団体連盟の会員と市職員が、11月14日に茅野市に出向きまして、茅野市芸術文化協会の会員との交流を開催してきたところでございます。

○スポーツ課長【内藤康雄】　　それでは4点目の第42回市民走れ走れ大会の報告をさせていただきます。資料7になります。

12月9日の日曜日に開催いたしました。最終的には昨年比で14人の完走者の減がございましたが、多くの親子、子どもさんの元気な走る姿が見られまして、大変ほほえましい大会でございました。

続きまして5点目の、第30回伊勢原駅伝競走大会でございます。資料は8番になります。

来月の1月20日、日曜日に、午前8時30分から開会式を行いまして、10時から伊勢原駅伝を始めるという段取りでございます。

大会の概要でございますが、今年は成人の部、伊勢原駅伝の部で60チーム、子どもたち、小学生の部で60チーム、合計120チームの皆さんが駅伝競走大会を楽しむ予定になっております。

続きまして、6番目の、第67回市町村対抗かながわ駅伝競走大会でございます。資料9になります。

2月10日、日曜日でございますが、かながわ駅伝競走大会が行われます。秦野の中央運動公園から相模湖漕艇場までの区間を走るわけですが、本市、伊勢原

におきましては、善波のバス停あたりを9時27分、白根中継所を9時37分、愛甲石田の駅のあたりが9時52分という通過予定時刻になっております。

また、伊勢原市では、白根自治会館前に第2中継所を設営し、大会協力を行う予定になっております。

それから資料はございませんが、3月に行われます第28回大山登山マラソン大会の応募者の状況について報告いたします。

昨日、12月19日の水曜日、午後5時をもちまして、登山マラソン大会の募集を締め切りました。現在のところの応募者数は2,861人でありまして、北海道から長崎県まで、全国にまたがっていらっしゃいます。

来年の1月4日を参加費の締め切り日としておりますことから、確定参加者数は1月10日前後となります。来月の委員会にて確定数の報告をさせていただきたいと思っております。

○教育総務課長【風間誠司】 引き続き(7)の中学校のガラス処理についてご説明させていただきます。資料はございません。

今年の4月28日の土曜日から、翌日の日曜日の6時15分までの間に、成瀬中学校の窓ガラスが2枚ほど割られるという事件がございました。被害額といたしましては1万1,500円程度でございます。

ガラス破損が発見されたその日に、教育委員会に連絡が入るとともに、学校のほうで被害届を警察に出しております。

その後、11月27日に、いろいろな余罪とともに加害者が捕まりまして、警察から成瀬中学校に連絡が入ったという状況でございます。

そして今月の7日になりますが、加害者の両親から弁護士を通じて、費用の損害額の一部について弁償させていただきたいという電話が入りました。それをもちまして、来週の25日にその弁護士と相談いたしまして、被害の一部弁償につきまして、話を続けていきたいと考えております。

引き続き(8)の教育委員会1月定例会の日程でございます。次回は、1月22日(火)9時30分から、隣の全員協議会室で開催する予定でございます。

以上でございます。

○委員長【宇都宮泰昌】 その他事項、何かほかにもございますでしょうか。質問等はございますか。

○委員【三箸宜子】 大山マラソンですけれど、前回、大分寒い日で大変だったのですが、その後、寒さ対策に関してはどういうふうになったのか教えていただきたい。

○スポーツ課長【内藤康雄】 わかりました。黒板があるので、絵に書いてご説明いたします。

神社さんの、ここに土間がありまして、表彰式をここで行っているのですが、今般、この土間にストーブを置いて暖かくして、受賞者の男性はここで待っていただきます。女性は屋内の控え室がありますから、そちらで待っていただくと考えております。そして、受賞者が全員そろいましたら集まっていただくというふうにいたしたいと思っております。

○委員【三箸宜子】 受賞者のみではなく、走ってくださった方皆さんにホッカイロを配るぐらいのことはできないのですか。

○スポーツ課長【内藤康雄】 はい。いろいろと費用を工面をさせていただいてはありますが…。

○教育長【鈴木教之】 待機場所だけはきちっと宮司さんにお話しして、今度はしっかり暖かくしています。それで、お待たせしないでどんどん表彰をやりましょう。

○スポーツ課長【内藤康雄】 委員さんの参加者に対する温かいお心は大変うれしいものがありますが、走路で立っている皆さんも寒いのです。雨が降っていても立っていてもらうのです。そういう多くの皆さんの我慢と努力の成果として、この大会が今まで営々と維持してこられたという事実もあります。我々はいつも感謝の気持ちでいっぱいでございます。

○委員【三箸宜子】 以前の会議でも提案が出ましたが、時期を変える等の検討をしてみたらいかがですか。

○スポーツ課長【内藤康雄】 委員会の中で、できるかどうか検討させていただきたいと思います。

○委員長【宇都宮泰昌】 ほかにいかがですか。

○委員【菅原順子】 ラミラダ市の教育視察研修の報告会には今年の1月にも伺って、それぞれ貴重なお勉強と経験されてきたお話を伺えて、私にとっても有意義だったのですが、先ほどいただいたあふり所報に報告会の日程が出ているのですが、これは広く皆さんに来ていただくということはどうですか。市民の方とか。今度は田中先生の特別支援のプログラムなども見学されてきているので、このあたりの話は保護者の方や地域の方でも有意義ではないかと思えます。

○教育センター所長【塩川幸恵】 この報告会は教職員を対象としておりますが、あふり所報はPTAのほうにも送付させていただいておりますし、既にホームページにも掲載をしておりますので、ご連絡をいただければ出席していただくことは可能かなとは思っています。

○学校教育担当部長【山口賢人】 今年度は、教育委員さんに参加していただく学校行事を幾つか増やさせていただいておりますが、内容によっては市民の方々にも周知して、来てもらえるような機会にできればと検討しております。

○教育長【鈴木教之】 この報告会については、市議会の教育福祉常任委員会の委員さんに連絡しているのですか。

○教育センター所長【塩川幸恵】 いえ、特別なご案内はしておりません。

○教育長【鈴木教之】 地域理解のためにも来てもらって見ていただいたほうが良いと思いますよ。

○委員【菅原順子】 もう1点。(3)の市民文化祭についてですが、このときに限らず、中学校の催しや、いろいろ教育関係の催しがあると思うのですが、何しろ駐車場が狭過ぎまして、来てくださる方に大変ご迷惑をおかけしてしまうので、そのあたり何か、例えば、催しがあるときは駅と結ぶバスを、時間に合わせて1本でもいいから走らせるとか、そのような工夫ができないものでしょうか。

また、伊勢原の文化を進めていくという点では共通の部分があるわけですから、文化会館と教育委員会とが、もうちょっと協力し合って高めていくことはできないのかなと思います。

この市民文化祭に関しても、来年度はもっと期間を縮小されたりというような意向が文化会館のほうからお話があるわけですが、もうちょっとこちらからプッシュすることができないのかなと疑問に思います。

○社会教育課長【相原博】 文化会館の利用につきましては、文化会館側から、市の事業で文化会館の日程のほとんどが埋め尽くされてしまっており、文化会館本来の、貸し館としての事業ができていないと言われております。そういったことから、効率的な運営を図って欲しいという要請がありまして、市の各部所が文化会館の使用を調整した経過がございます。社会教育課だけではなく市のほとんどの行事が、文化会館が近くていいからという理由で使っている状況がありますので、その辺を一旦整理して、効率よく事業運営してください、というような要請でございました。

文化祭等についても、ちょうど市民の利用が集中する時期でもございますので、その辺何とかならないかという要請から、それなら日程の調整をしようとして文化団体連盟と調整しながら検討いたしました。

駐車場の問題につきましては、ご家族皆さんで車で来られるということもありますので、今後、どんな改善策がとれるのか検討していきたいと思いますが、現状ではすぐにそれをできるという状況ではありませんので、また文化団体連盟とも相談していきたいと考えております。

○教育長【鈴木教之】 いわゆる文化事業って、未整理なのです。学校教育があつて社会教育があつて、それから生涯学習があつて、あと地域文化振興事業みたいなものがあるのです。まさに文部科学省の局の中でばらばらになってしまっているのですが、最近の傾向としては、文化一本で行こうという団体もありますので、今後の組織再編の中での一つ課題になっています。特にスポーツの扱いと文化の扱いですね。

私ども教育委員会としては、例えばスポーツを市長部局のほうで、市民協働とか健康づくりをベースにやるのであれば、文化会館自体を教育委員会に移してもいいよ、という話はしているのです。やはり一本のほうがいいです、絶対。それは市政の課題になっています。

○委員長【宇都宮泰昌】 ほかにございますか。

ないようでしたら、本日の教育委員会会議はこれをもって閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

----- ○ -----  
午前10時50分 閉会

《会議配付資料》

資料1：平成25年度予算要求額資料 教育部

資料2：平成24年度 いじめに関する緊急調査＜文科省・神奈川県教委＞  
(伊勢原市の結果)

資料3：平成24年度 市議会12月定例会 一般質問(教育委員会関連)

資料4：平成24年度 作文・ポスター作品募集入賞者一覧

資料5：平成24年度姉妹都市(ラミラダ市)教育視察研修派遣の報告について

資料6：第48回伊勢原市民文化祭実施状況

資料7：第42回市民走れ走れ大会 結果概要

資料8：第30回伊勢原駅伝競走大会開催要項

資料9：第67回市町村対抗かながわ駅伝競走大会

《その他配付資料》

・あふり所報

・子ども科学館ニュース(2013年1月～2月号)

・教育委員会関連主要行事一覧(平成25年1月から2月)